

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	令和8年度 第1回入間市児童発達支援センター運営協議会
開 催 日 時	令和8年7月3日(金) 午後1時30分 開会 午後2時45分 閉会
開 催 場 所	入間市健康福祉センター 3階301会議室
議 長 氏 名	越智恵子
出席委員(者)氏名	越智恵子、茂木陽、伊藤浩二、石垣祥子、野口節子、宮島千秋、 岩崎雅美、土橋秀子、松尾麻里、高橋幸紀、宮崎琴子、牧田誉子 木口昭子
欠席委員(者)氏名	桂川泰典
説明者の職氏名	こども支援課副主幹 丸山恵子
会 議 次 第	1 開会 2 正副会長選出 3 議事 (1) 令和7年度入間市児童発達支援センターういず事業実施報告 及び実施評価について 4 その他 5 閉会
非 公 開 理 由	
傍 聴 者 数	なし
配 布 資 料	1 次第 (委員名簿) 2 資料1 令和7年度入間市児童発達支援センターういず事業 実施報告 3 資料2 令和7年度入間市児童発達支援センターういず事業 実施評価
事務局職員職氏名	【こども支援部】部長 黒木聡子、次長 豊泉兼一、 【こども支援課】課長 園田智慈、副主幹 青木三千代、 副主幹 丸山恵子、副主幹 堀内由香里、 指導主事 大館信浩、主任 柴岡春香
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過) ・ 決 定 事 項

1 下記の議題について事務局が説明し、審議を行った。

委員からの質疑については、事務局が回答した。

- (1) 令和7年度入間市児童発達支援センターういず事業実施報告及び
実施評価について

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
	(委員及び事務局の発言が行われた部分のみ記述する。)
事務局	(開会)
こども支援部長	(あいさつ)
事務局	(委嘱式)
委員全員	(自己紹介)
事務局全員	(自己紹介)
委員全員	(会長・副会長の選出) 推薦により、会長に越智委員、副会長に松尾委員が選出された。
越智会長	(会長就任のあいさつ)
松尾副会長	(副会長就任のあいさつ)
越智会長	初めに、今日の会議の成立について確認する。本日は14名中13名の委員が出席のため入間市児童発達支援センター運営協議会条例第6条第2項の規定により、本日の会議は成立している。傍聴人がいたら入室をお願いする。
事務局	(傍聴希望者なし)
越智会長	本日の議題に入る。今回の会議録署名人は高橋委員をお願いする。
越智会長	「令和7年度入間市児童発達支援センターういず事業実施報告及び実施評価について」を議題とする。事務局から説明願う。
事務局	(議題1「令和7年度入間市児童発達支援センターういず事業実施報告及び実施評価について」について、資料1・2により説明)
越智会長	事務局より説明があった議題1について、意見・感想があれば発言いただきたい。
土橋委員	資料1の1ページ相談支援事業について、不登校の相談が143%増加したとあるが、小学生・中学生等、どの年代からの相談が多いか内訳を知りたい。また心理士の相談後に、どのような支援先につないでいるのかを教えてください。 あわせて学習支援について、こどもたちの中には、既存の制度の対象にはならず、支援の隙間に取り残されてしまうケースも想定される。こうした制度の隙間にいるこどもたちに対し、市として、どのような支援先へつないでいるのか、お聞きしたい。
事務局	不登校での相談は、中学生より小学生が多い。内容としては、完全に不登校になる前の行き渋り段階での相談や、休みが続いている等の相談が多

	く、心理士が相談を受けたあと、必要に応じて医療相談につなげている。医療相談では、保護者の希望により、学校の先生や放課後等デイサービス等の支援者も参加することができ、多角的な支援につなげている。またフリースクール等を紹介させていただくこともあり、地域の支援機関と連携して、こどもの育ちを支えていくことが大切だと考えている。 学習支援については、小学校に入ってから相談が多い。まずは心理士が相談対応を行い、学習面や生活面の課題およびその背景にある要因を詳細に見極めた上で、必要に応じて作業療法士による専門相談や医療相談へとつないでいる。あわせて、支援の方法については、保護者や学校等と連携・共有を図りながら対応を進めている。
高橋委員	資料2の3ページ地域の支援機関・関係団体との連携・協力について、令和7年度は地域の支援機関への訪問を実施できなかったことから、C評価となっている一方で、関係機関連絡会は、多くの支援者が参加として、S評価となっている。関係機関連絡会に多くの支援者が参加し、情報共有が行うことができれば、必ずしも訪問が必要ではないと考える。市内の各事業所を訪問するのは、事務局の負担が大きいのではないかと考える。
事務局	これまで各事業所等へ直接足を運ぶ機会がなかったため、支援機関と顔の見える関係を構築できるよう支援機関への訪問を計画した。時期を見直し、令和8年度からの実施となったが、現在約70施設の訪問を完了している。実際に訪問をする中で、顔をつなぐだけではなく、現場の環境や支援の状況を直接知ることができた。今後の児童発達支援センターの事業に反映させるためにも、現場を知ることが大切だと考え、訪問については引き続き実施をしていきたいと考えている。
野口委員	資料2の5ページ、民間活力の導入について、委託先にスペクトラムライフ㈱と記載があるが、令和8年度も同様に委託をしているのか。
事務局	令和7年度から5年間の委託契約となっていることから、令和8年度についても相談支援事業・児童発達支援事業をスペクトラムライフ㈱へ委託している。
岩崎委員	入間市として、児童発達支援センターを運営していることが意義深いと感じる。若い世代にむけて、市が児童発達の分野に力を入れていることをアピールし、一歩広げて、インクルーシブ教育等に力を入れて取り組んでいくと、市の1つの強みになるのではないかと考える。 相談支援事業では、未就学児のニーズが高いことから、どのように充実を図るのが課題と考える。児童発達支援事業では、医ケア児の単独通所の開始により、支援の拡充がされている。地域支援事業では、関係機関連絡会に140名参加があった等、実績としては高いと考える。一方で各事業では、つながりが必要な部分がある。 例えば休日相談会は、相談に行きたい方が利用するものであるため、相談しようか迷っている方に向けてのアプローチが必要である。5ヵ年計画という中長期的な視点を持つのであれば、SNSやチャットツール等の身近な手段を活用し気軽に相談につながれるしくみを構築することも有効ではないかと考える。 地域支援事業では、保育所・幼稚園・学校等の現場が抱える課題や問

	題を抽出したうえで、研修内容を考えていくことが大切である。令和7年度実施した発達支援講座は60名の参加があり、研修の需要が高いのであれば、今後はオンデマンド配信等も視野に入れ、当日の研修に参加できない方も受講ができると、地域全体の支援力の向上につながるのではないかと考える。 普及啓発では、自閉症啓発にとどまらず、児童虐待防止や小児がん等のテーマについても、学校教育等で取り入れることが、多様性への理解を推進するまちとして、入間市の強みになると感じる。今後もつながりを意識しながら、各事業を進めていただきたい。
木口委員	資料2の4ページのSST出前講座、夏休みSST集中講座について、こういった体制でどのように実施しているのかをお聞きしたい。
事務局	SST出前講座については、児童発達支援センターういずの職員が希望のあった学校に出向き、1コマを使って年齢に合ったSSTの授業を行っている。担任の先生にも授業に参加いただき、クラス全体が体験を通して、学べるような内容となっている。令和7年度は、周知方法を年1回から年2回へ変更したことで、希望する学校が大幅に増え、多くの学校で講座を実施できたことから、S評価となった。 夏休みSST集中講座については、市内の在住・在学の中学生と高校生を対象として行っているもので、心理士が作った資料をもとに児童発達支援センターういずの職員が講座を実施している。令和7年度は参加者の予定の都合で、年3回の実施となった。
木口委員	資料1の5ページ、ペアレント・トレーニングやペアレント・プログラムについて、実施方法を検討するため、近隣市へ調査を実施とあるが、その調査結果について、教えていただきたい。
事務局	近隣4市に調査したところ、いずれも一定期間にわたり複数回の講座を実施する必要があることから、実施をしていない、または講座回数や内容を変更して実施しているとの回答が多かった。この調査結果を踏まえ、児童発達支援センターとして、どのようなニーズがあり、どのような体制であれば実施可能かを検討していきたいと考えている。
越智会長	SST出前講座をはじめとする学校での授業について、かつて小学校の総合学習で高齢者疑似体験や障害当事者を招いた授業が行われていたことを踏まえ、また私自身が知的障害の疑似体験授業に携わった経験から、こどもたちにもそういった学びの機会があると良いと感じている。 児童発達支援事業について、令和7年度に医療的ケア児の単独通所が開始されたことは、保護者にとって心強く、就学へつながる取り組みであると感じる。現場の支援者の大変さもあると思うが、ぜひこれからも支援の幅を広げていただきたい。 令和8年度から始まった事業所訪問についても、地域連携の推進ができる取り組みであると考えている。福祉と教育の連携についても、こどもに関わる事業所や学校等で支援会議が実施されるようになり、個々のこどもに応じた支援の場が広がってきていると感じる。

越智会長 松尾副会長	各委員の皆様からご確認や報告等あるか。（意見なし） （閉会あいさつ） 以上
--------------------------	---

議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。	
令和 8 年 7 月 30 日	
議 長 の 署 名	越 智 恵 子
議長が指名した者の署名	高 橋 幸 紀